

子どもたちの無限の能力を、  
褒めて引き出したい――

静岡県市町対抗駅伝競争大会の監督として、5年連続で島田チームを率いる増田さん。普段は年20回ほどの陸上教室や週3回の長距離練習会でも、子どもたちを指導しています。考える力やバランス感覚を養うなど、スポーツの持つ力を知る監督は、日頃から子どもたちの探究心を引き出すように努めています。

#### 【選手から監督へ】

増田さんが中距離走と出会ったのは、中学生のとき。砲丸投げ元日本代表で陸上部顧問だった教師との出会いがきっかけで、走りにのめり込んでいったそうです。

「進路選択で親に怒られても、他の道は考えられなかった」という増田さんは、優れた陸上の指導者がいる高校・大学へ進学しました。

大学では、箱根駅伝を目標としたものの、膝の故障で出場できず悔しい思いを



しました。しかし、社会人になってからも日本選手権を目指すなど、熱い思いを持ち続けた増田さん。その経験を生かし、定年退職後に陸上教室を始め、夢を持つことの大切さを子どもたちに伝えるよう

うようになり、練習の合間に一人一人の様子に合わせ、学業も含めたさまざまなアドバイスをしています。

「勉強の話をするときには『持っている時間はみんな同じだから、何に使うかで人生

うにも気を付けています」と温かく成長を見守ります。

#### 【恩返しと郷土への思い】

市町対抗駅伝の監督である増田さんは「駅伝の大会には大勢の協力者が必要です。これまでお世話になった多くの先輩や指導者への恩返しという思いもあって、監督を引き受け続けてしまっています」と穏やかな笑顔で語ります。

金谷町時代のコーチを含めると、ほぼ全ての市町対抗駅伝に携わっている増田さん。

「タスキを次の人につなぐという喜びと、果たすべき責任を、選手には駅伝から感じてもらいたいです。私の役目は、選手の調子の良さを本番に持つていくこと。同じ区間で力が拮抗していると、どちらの選手を出すか悩んでしまいますが、チームの勝利や選手の将来性を考えて決断します。やはり郷土の代表には、いい成績を出してほしいですからね」と熱意を教えてくださいました。

タスキに託される責任や喜びを、増田さんはこれからも伝えていきます。



成長を見守る市町対抗駅伝の監督

増田忠雄さん（横岡新田）

になりました。

#### 【成長を見守る】

練習をとおして、小中学生と接する機会の増えた増田さんは、楽しく練習して運動も勉強もがんばってほしいと思

が変わってくるよ」と話します。今の能力に合った目標をそれぞれが設定できるように、手助けしたいと思っています。決めつけたり否定したりせずに褒めることで、子どもたちのやる気を引き出すよ

練習をとおして、小中学生と接する機会の増えた増田さんは、楽しく練習して運動も勉強もがんばってほしいと思



練習のウォーミングアップは監督も一緒に



Shimadian File #55

